

「るもいMIRAIアクション」各学校取組のまとめ

実践発表

発表動画はここから見られます！

検索 るもいMIRAIアクション



① 羽幌町立羽幌中学校 総合的な学習の時間「羽幌町PRプロジェクト」学習報告



羽幌町の魅力PRに向けて
ライバルの視察
～沼田・秩父別・深川～

沼田町：あんどん祭り、雪の貯蔵庫

秩父別町：ローズガーデンちっぷべつ
ベルパークちっぷべつ

深川市：花火大会、移住、農産物、道の駅

テーマ 〇〇で人・金を集め、 羽幌町を 活性化したい！！	A1班	君にとどけ 聖地巡礼スタンプラリー
	A2班	移住者を増やす
	A3班	花火大会
	A4班	羽幌神社祭を盛り上げる
	B1班	オロチャンランドのPRプロジェクト
	B2班	羽幌町の宝物「農業」
	B3班	バラ園のPRプロジェクト
	B4班	羽幌産アスパラに付加価値を付ける



この学習に取り組むまでは、自分の町が好きではなかったが、町の現状を確かめ、よりよい町になるように考えていくうちに、楽しさややりがいを感じるようになった。これからは、私たちの世代が先頭に立って羽幌町を盛り上げていきたい。

アンケートから抜粋

- ・ アスパラに付加価値をつけることを思いつくのはすごいし、おもしろかった (天塩中学校)
- ・ 中学生とは思えないほどのクオリティでした (留萌高校)
- ・ 観光において大切な、他班の聖地巡礼スタンプラリーが気になった (留萌高校)
- ・ 羽幌の特産である甘エビ以外のアスパラに注目して、それを有名にするためネット販売や家庭菜園をしてもらうなど様々な案がありとてもおもしろかったです (羽幌高校)
- ・ 過去の自分たちでは考えられなかった視点を持っていて新しく学んだことが沢山あった (羽幌高校)
- ・ 一般家庭でアスパラガスを育てる前に、羽幌中学校で実際に育ててみてほしい。 (羽幌高校)
- ・ 町に住むお年寄りにアスパラを育ててもらおうなどして地域おこしができたら、お年寄りの生きがいにもなるし活性化にも繋がると思った (羽幌高校)
- ・ 他の町も視野に入れての探究、一人一人の考えもしっかりしていて凄いと感じた。 (天塩高校)
- ・ 実体験を伴った探究活動は人生の糧になると思いました。素晴らしいと思います (小平中学校教諭)

- ・ 凛とした発表姿にまず感動しました。まとめでの発言にあった「当初まちが好きではなかったが授業を通して少し好きになった」との気づきを中学生の年齢でできるのは、素晴らしい能力だと思います。そのような感情を大切に、課題や疑問を深掘するという体験をもっとして欲しいと思いました。(るもい未来観光創生チーム)

羽幌町のあまり知られていない特産品「アスパラ」への付加価値という着眼点と、他町の視察など探究の方法に高評価が集まりました。また、何より地域活性化に向けて真摯に取り組む中学生の姿勢が、地元羽幌高校生をはじめ参加者の心に響きました。実際に、羽幌 PR 作戦のアイデアがまちづくりに活かされてはじめてました！（町議会第2回定例会より）

② 留萌高校・北海道大学 SDGs・ゼロカーボンプロジェクト

「知らないと怖いプラスチック」

発表動画はここから見られます！

検索 るもい MIRAI アクション



見学して感じた課題

① 可燃性埋立ごみに多くのプラスチック製容器が混ざっている

② プラスチック製容器の中に「二重袋」がある

皆さんに守ってほしいこと

- ① プラごみを「可燃系埋立ごみ」「不燃系埋立ごみ」に捨ててはいけない。
→できる限り資源ごみに分別する
 - ② 「プラスチック製容器」は「二重袋」にして捨てない。
→ ♻️マークのついている資源は、小袋に入れない
-

アンケートから抜粋

- ・ 最初のパワポで人への有害性をわかりやすく示していて自分も問題意識を持てました(留萌中学校)
- ・ プラスチックと可燃ゴミが混ざると地球やゴミ処理場で働いている人に迷惑がかかることがわかりました。とてもわかりやすい発表でした(羽幌中学校)
- ・ 良いことと思いき二重袋にしてきたが、そうではないこと知り、気をつけたいと思った(天塩中学校)
- ・ プラスチックのメリットである耐久力がかえってデメリットになっていることがわかった(留萌高校)

- ・これは日本中、世界中が知るべきことと感じ、分別は大切なことだと改めて感じた(遠別農業高校)
- ・可燃ゴミへのプラゴミゼロの目標に私もしっかり協力したいと思った(羽幌高校)
- ・二重袋のことなど大人でも知らないことがたくさんありました。留萌のゴミ捨ての見やすいリーフレットは、子どもたちはもちろん引越してきた大人達にも嬉しいと思います(苫前中学校教諭)
- ・テーマは大人も四苦八苦する難しいものですが、自分たちにできることにしっかり落とし込み「できることから取り組んでみる」という姿勢が何より素敵でした。学校だけでなく、市民や地域へ広く働きかける活動として継続して欲しいです(るもい未来観光創生チーム)

SDGsに関わる地球規模の課題を、見ている人が共感を得やすい画像を使っての問題提起から、自分たちで取り組めるゴミ問題への落とし込みが見事でした。また、多くの人知らなかった「二重袋」の問題について、この発表を見ていた人の行動変容につなげることができました！
 ※この発表は、「SDGs×北海道セミナー」にて、全道に発信しました。



発表動画はここから見られます！

検索 るもいMIRAI アクション



③ 北海道天塩高等学校

ニシンと天塩の特産物「**幻の魚！撮ったどー！！**」



居酒屋はまなすでのヒアリング

天塩の食材で商品開発を行っている
 長山志津子さん

8月26日 13:30-14:30

あんなこの唐揚げバーガーをいただきました！
 (開発まで3年程、特製ソースが超うまい！)

なぜ商品開発をするのか

- ①天塩の魚を天塩の人が食べていない
- ②みんなに天塩でとれたものをおいしく食べてほしい

天塩のニシン

- ①近年、質が良くなっている！
- ②油分と骨が多く、加工は大変

"天塩のニシン"を通して天塩町を盛り上げる開発がしたい！

ニシンを使った特産品

- ・ニシンせんべい「**にしせん**」
- ・ニシン缶詰め「**日本一くさい缶詰め**」

イメージ：日本一くさい缶詰め「シュールストレングス」

詳細「にしせん」

- ・1kgあたり340円4匹の半身を使用するため一枚当たり**42.5円**(材料費)
- ・一枚当たり**457.5円**の利益
- ・1日8時間(1週間)の営業とし、毎5分2枚焼きあがるとすると**614880円**の利益

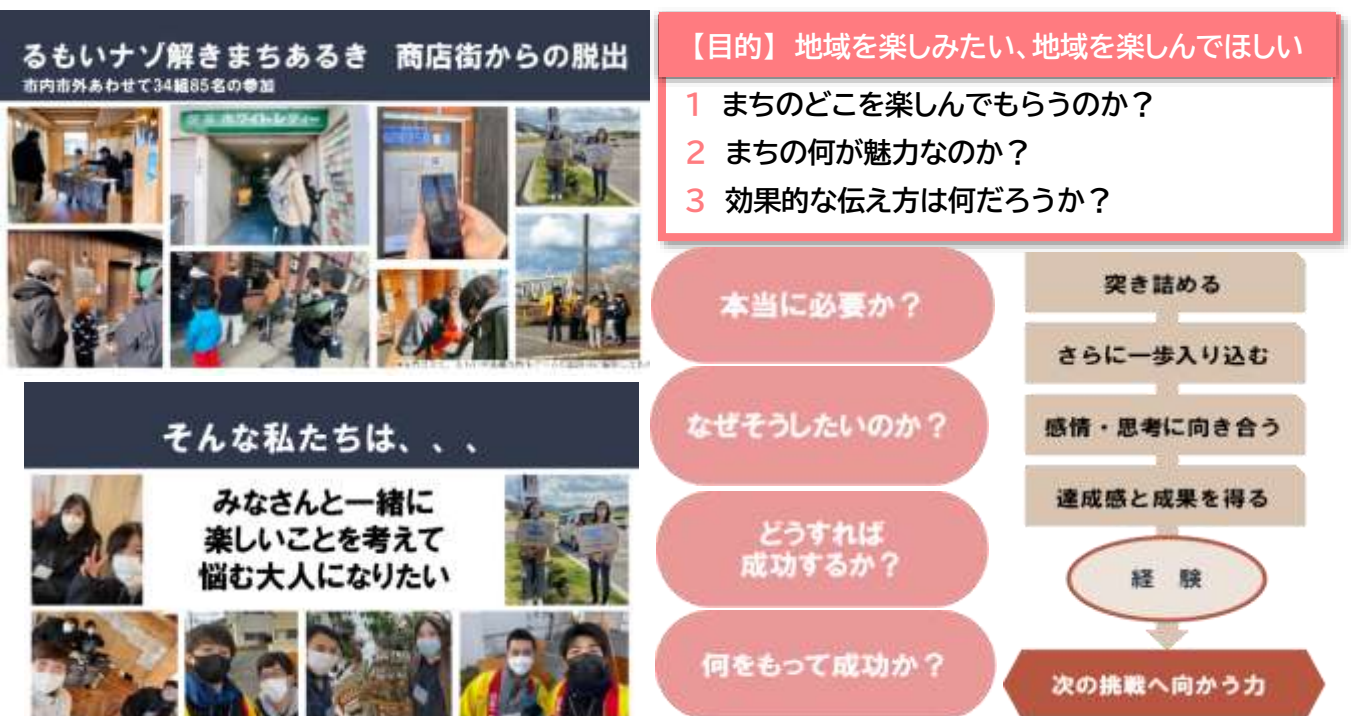
アンケートから抜粋

- ・「日本一くさい缶詰め」という逆転の発想が面白かったし、目からウロコでした(初山別中学校)
- ・今まで思いつかなかったもので売り出そうとするのは、勇気のいることだと思った(天塩中学校)
- ・漁獲量などでグラフを使っていて、わかりやすかった。予算や売り上げの計算がリアルにされていて、実現性があると思った(天塩中学校)
- ・筑波大学と連携をとって探究しているのは良いと思った(留萌高校)
- ・昔から盛んだった事業の復興等過去を生かす活動という点でとても惹かれた。現時点で日本一くさいと言われている「くさや」との比較も含めて期待しています(留萌高校)
- ・海に流されてしまうオスのニシンを使って缶詰やせんべいと作るなど、すごく具体的に説明されていて勉強になりました(羽幌高校)
- ・実演販売は人と人がつながりますね。その視点が素敵と思いました(小平中学校教諭)
- ・ニシンせんべい食べてみたいです。SNSなどを使って、全道・全国へアピールしてみてください。ニシン文化がある京都をはじめとした西日本の大都市をも商圏にできると思います(苫前中学校教諭)
- ・総合的な学習の時間をより現実的に「事業」として捉えた活動となっており、大変感動しました。商品開発や地域づくりに大人も子どもありませんし、むしろ子どもの柔軟な発想とパワーはより効果を生むと思います。自分たちがまちづくりを担っているんだ、くらいの気持ちでガンガン大人を引っ張っていってください(るもい未来観光創生チーム)

天塩町の特産品であるニシンについて、その歴史から現在の漁獲量に至るまでデータに基づいた解析から、斬新な開発アイデアやネーミングは大変評価が高かったです。また、予算から事業収支まで考えられており、近く実現する姿が想像できて、実際に手にするのを楽しみにしている声が多く聞けました。

④ るもい未来観光創生チーム

るもいナゾ解きまちあるきを軸に「**想いを実現する上で大切なこと**」



るもい未来観光創生チーム 笠原 佳祐 氏・佐伯 結 氏

留萌市の若者で結成されたチームが
まちおこし事業を実施

発表動画はここから見られます！

検索 るもい MIRAI アクション



事業の**成果**は参加者数や経済効果で図られがちだが、私たちは実現までの苦悩や**経験そのもの**だと思っている。自分が叶えたい夢について「本当に必要か？」などを考え、突き詰めていく。失敗と挫折を繰り返しながら、時には全く別の結果につながることもある。**実現できたときに得られた経験や達成感が、次の挑戦に向かう力となる。**
私たちは、**たくさんの方々から知恵や力を借りて進めてきた**。だからこそ、**まちを好きになったし、今が楽しい**と感じている。

助言

NPO法人留萌観光協会副会長 佐藤 太紀 氏

建築業・メディア業・観光業などから
まちづくりを幅広く手がける社長からのアドバイス

助言動画はここから見られます！

検索 るもい MIRAI アクション





「必ず人とつながって、人を巻き込んですすめてほしい」
・ひとりでできることは限られているけれど、3人集まれば5人分のことができる。夢を語って周囲の人を巻き込もう！
「終わりのないまちづくりは楽しい！」
「自分事として関わることが、ワクワクにつながる！」
・決して楽ではないけれど、お金と時間をかけて真剣に遊ぶから本当に楽しい。
・「成功」の対義語は「何もしないこと」。失敗は、うまくいかない原因をおしえてくれるだけ。成功するまで続ければ、失敗ではない。




地域別交流

① 留萌市・増毛町・小平町グループ / るもい未来観光創生チーム 笠井氏、佐伯氏

<p>留萌高校</p>	<p>まるおカルタ</p>	<p>「住んでよし、訪れてよしの街づくり」の実現に向けて 地域活性化につながる商品開発の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生向けカルタの開発・販売 ・木製キャラクターコースター制作・販売 ・新たなイベントの提案(プロジェクトマップ等)
<p>ゼロカーボンプロジェクト</p>	<p>垂直軸型マグナス式風力発電</p>	<p>「風力発電の新たな可能性」について 管内の市町村の実態に合った風力発電の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋上風力発電の推進(留萌市) ・小型風力発電(景観をそこねないように天塩町など) ・水素サプライチェーン(水素蓄電・運搬)の活用等(苫前町)

<p>小平中学校</p>		<p>広く小平町を知ってもらい、留萌管内を元気に！ 小平町のパンフレット制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小平町内の商店等を取材 ・パンフレットは、小平町内、留萌市、修学旅行先等に配置
<p>増毛中学校</p>		<p>増毛町への愛着や誇りを育む「ふるさと教育」・「観光教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年／北海道遺産「増毛山道踏破体験」「影絵紙芝居」の体験 ・2年／幹産業である果樹園や水産加工場、酒造会社を学ぶ ・3年／街頭アンケートや取材を通して他市町の活性化の工夫や課題について情報を集め、増毛町の活性化の施策を考える

② 苫前町・羽幌町グループ / LASH★danceschool 渋谷氏

<p>苫前商業高校</p>		<p>まちと密接に連携した学習活動やさまざまな取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とままえ学／熊事件復元現場見学・熊獅子舞体験等 ・苫カフェ／地元企業などと連携し生徒開発商品を販売 ・TDK ボランティア／小学生の体験活動のボランティア ・学校祭／地域の方との交流を目的 など
<p>羽幌高校</p>		<p>「総合的な学習の時間」から「探究活動」へ マイクロプラスチックの研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽幌町海岸の砂を採取してプラスチック量を計測 ・1年次の考察から2年次は採取場所や方法を変更 ・環境保全に興味をもち海鳥センターへ職場体験
<p>天売高校</p>		<p>働き手として地域貢献をしながら、島の活性化を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックを減らす提案(水産クラブ) ・アワビの養殖を復活させる提案(水産クラブ) ・空き家の改築、海底トンネル、飛行場の提案(天売学) ・小中高青年部で協力した道路や海岸沿いのゴミ拾い等

③ 初山別村・遠別町・天塩町グループ / 一般社団法人マッチワークス 佐古氏

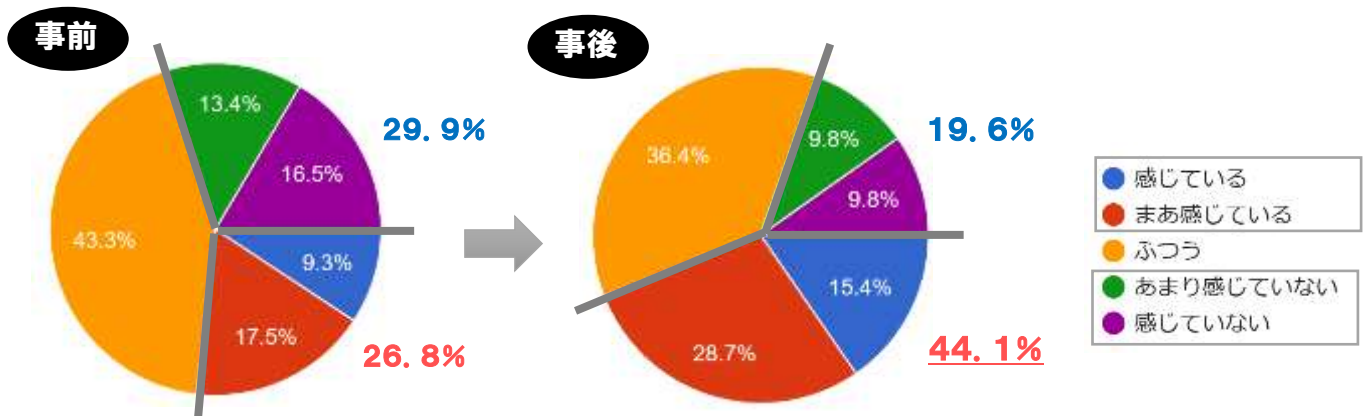
天塩町地域おこし協力隊 野口氏、三國氏、天塩町総務課 菅原氏

<p>遠別農業高校</p>		<p>農業を生かして地域を盛り上げる「農業クラブの取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ファーマーストーク inRUMOI」と校内実績発表会を連動→発表に指導農業士などからアドバイスをもらい、ワークショップで農業の未来について議論) ・年間を通じた小学校との稲作交流で農業振興と食育等
<p>遠別中学校</p>		<p>総合的な学習の時間「道の駅へ商品提案」 町民と協力し地域を活性化させる地域学習の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠別町の特産品を使った「チーズたこざんぎ」を期間限定販売(昨年度の3年生) ・「まち再発見」というテーマで活動中(2年生)
<p>天塩中学校</p>		<p>天塩PR大作戦「ポスター制作」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天塩町の現状を知り課題や解決策について考える ・プロから写真の撮り方やポスターの作り方を学ぶ ・職場体験学習も活用し地元の風景や働く人の写真をとる ・ポスターを作成しコンペティションを開催(町長など)

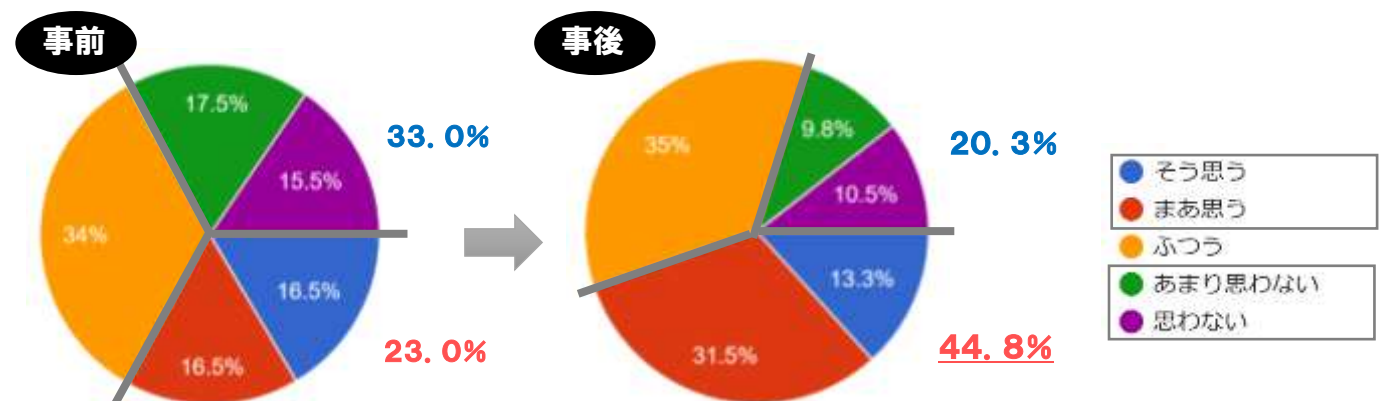
アンケート結果から

アンケート回収数/事前97・事後143

現在住んでいる留萌管内の地域に「誇り」を感じていますか



あなたは、将来どこに住んでいたとしても留萌地域に貢献したいと思えますか



中学生・高校生が、地域づくりにかかわる意味や価値は何だと思いますか

- ・学生のうちに地域について考えることで、社会に出たときに企画などを考える力を養うことができる。
- ・新しいことにチャレンジしやすく、行動もしやすい。
- ・探究心と実践力が地域活性化につながると思った。
- ・若い人は地域づくりに参加することで、大人の中では得られないような意見や子どもから見る新しい視点を大人と共有することでさらに地域が活性化することだと思います。
- ・中学校からこういう取り組みをすることに意義があると思います。
- ・これからの時代私たちが中心になってくると思うので、私たちが関わっていかないと誰もやらなくなってしまうと思います。
- ・物事を深く理解して、本質を考える力を身につけること。
- ・普段過ごしている地域を様々な視点からあらためて良さを発見したり、地域の人々の温かさを改めて感じることだと思います。

この事業全体の感想をお願いします

- ・農業高校だからこそ普通科の高校、中学校と連携して活動をしていきたいと思いました。
- ・来年度の課題研究が楽しみになりました。
- ・留萌をもっと栄えさせてシャッター街から抜け出したいと思いました。
- ・自分にできることがあだある、と思った。
- ・地域づくりはいろいろな人を笑顔にさせることだと改めて感じた。
- ・この事業で地域づくりに興味が湧きました。
- ・生徒と大人がそれぞれの取組みを発表していて、留萌全体で地域づくりをすることが大事なんだと思った。
- ・正直はじまるまで楽しみじゃなかったし、しんどいなと思っていたけれど、他の学校の発表を見ていてみんなが自分たちの町に貢献しようとしているのがカッコイイなと思いました。
- ・考えるだけじゃ意味がなくて行動することの大切さ、失敗を失敗にせず学びに変えることの大切さを学びました。
- ・留萌の課題等について、授業で考える機会があったものの、ここまで深く考え、またそういった人の発表を聞く機会がほとんどないのでとても参考になった。
- ・この事業自体が留萌管内の過疎化を防ぐ1つの行動だと思った。
- ・留萌管内の学校が一同に集まり活動内容を交流する機会が少ないので、またやってほしい。

全体を通して

令和2年度から3カ年計画で進めてきた留萌教育局主催の「オロロンリレーションプロジェクト」は、高校のUターン促進事業からスタートし、生徒達に留萌地域の良さや誇りを感じてもらえるよう、中学校や地域の方々も巻き込みながら「地域づくり」の取組促進へと活動を広げてきました。

今回発表があったように、留萌管内の各学校では地域と連携した地域づくりの取組が活発に行われています。本事業が、人口減少が進む留萌管内で、地域づくりの「地域」を「管内」まで視野を広げ、各学校の実践を共有し刺激しあいながら、ときに学校間の連携を図るキッカケになればと考えております。

留萌教育局では、来年度も同様のプロジェクトを進めていきますので、よろしくお願いします！